



基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

「新たな一歩 夕涼み会」

主任保育士 河野 宏典

平成最後の夏は、新棟への引越しという一大イベントで幕を閉じ、令和最初の夏は、台風5号というおまけつきで始まった夕涼み会。

昭和、平成そして令和にわたり受け継がれている西病棟の伝統行事が去る7月19日、山の子ホールにて行われました。

山の子ホールは総勢230名の利用者のご家族、ボランティアさんで超満員。出演いただいた三線や踊り、エイサーのリズムに自然と体が動きだす利用者さんでヒートアップ！会場全体は熱気に沸きあがりました。

昨年からは、西Ⅰ・Ⅱそれぞれに横断幕を作成することで、賑やかな雰囲気を高めるとともに、ご来場いただいた家族、ボランティア、院内の応援ボランティアの方々に鑑賞していただけるようにしています。

旧棟時代の夕涼み会といえば、中庭の真ん中に、やぐらを組んで、「THE 祭」といった雰囲気でしたが、屋内開催となった今、屋内の強みを活かした企画と内容でこれからも、みなさまに喜んでいただけるように頑張っております。

最後になりましたが、ご協力いただきました各部署のみなさまありがとうございました。



● 地域医療連携室だより

当院には、認知症治療病棟があり、包括支援センター、施設などと連携しており受診・入院の相談を受けています。高齢者虐待や緊急性の高いケースに関しては早めの対応で調整しています。初期集中支援会議では困難ケースについてみんなで意見を出し合い問題解決に向け検討しています。ご家族、地域関係機関と連携することで患者さんが安心して生活できるよう施設や在宅支援サービスの調整を行ってまいります。

何かお困りのことがあれば、お気軽に地域医療連携室へご相談ください。

院長

福治康秀(ふくじ やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。日本病院・地域精神医学会理事。



診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

- ・精神科病棟 151床
- ・認知症 56床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期 ユニット 4床
- ・重症心身障がい 90床
- ・医療観察法 37床



●アクセス
路線バス/那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス[77番名護東線]浜田バス下車徒歩3分
自動車/那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

NHO PRESS~国立病院機構通信~について

琉球病院は、国立病院機構(NHO: National Hospital Organization)という143の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。
国立病院機構(NHO)という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する「NHO PRESS~国立病院機構通信~」を発行しています。外来ロビーに設置していますので、ぜひご覧になってください。
なお、ホームページに最新号と過去のもの掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。

お問い合わせ時間
8:30~17:15 (土・日・祝日以外)
TEL: 098-968-2133 (代)
内線: 231・234
地域医療連携室(直通)
TEL: 098-968-3550
FAX: 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

平成22年から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は延べ281例になりました。令和元年7月のCLZ導入は5例で、このうち4例は他の病院からのご紹介をいただきました患者さん(入院中3名、通院中1名)でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。

m-ECT (修正型電気けいれん療法) の治療状況

当院では、m-ECT (修正型電気けいれん療法)による治療を行っております。令和元年7月の治療実績はありませんでした。

こども心療科

こども心療科では、県から委託を受けている「子どもの心の診療ネットワーク事業」の一環で、定期的に研修会を開催しています。去る8月24日(土)~25日(日)の2日間、効果が実証され、いくつかのPTSD治療ガイドラインにおいて子どものトラウマへの第一選択治療として推奨されているプログラムである、トラウマフォーカスト認知行動療法(以下TF-CBT)のIntroductory Trainingを開催しました。講師に臨床経験の豊富な白川美也先生をお招きし、TF-CBTの理論から実践での工夫までを、ロールプレイや治療場面の映像を見せながらの解説等を通して、具体的・体験的に学ぶことができました。受講者は、医療、福祉、保健、教育、司法と多領域に渡り、今後は県内の様々な機関で、心に傷を受けた子どもたちに、より専門的なケアが提供されることが期待されます。今後もこども心療科では、子どもの健やかな心の育ちを支えるための支援体制構築に向けて、様々なテーマの研修を企画していきたいと思っております。



認知症医療

認知症と虐待について考えてみたいと思います。テレビのニュースで認知症の方を介護しているご家族による虐待のニュースが報道されることがあります。ひどい場合は、殺人事件となることもあり、一生懸命介護しているご家族が虐待に至るまで追いつめられる状況を考えてと暗い気持ちになります。どうしたら社会的援助の手を差し伸べることが出来たのか、医療・福祉にかかわるものとして力不足を感じます。虐待はニュースになるような大きな事件ばかりではありません。障害者虐待防止法に規定されているように、能力的に出来ない事を要求する、させる事も虐待になります。認知症の方は出来ない事を目の前にして、恥ずかしさでいっぱいになり、自信を無くし、無気力になっていきます。出来ない事を隠そうとして物事に拒否的であったり、プライドを保とうとして怒りっぽくなることもあります。ニュースにならない小さな虐待ですが、認知症の方にとっては人格を否定され、人生の誇りを傷つけられる耐え難い苦しみとなります。ただ、出来ない事を要求している人は意図して虐待しているわけではありません。認知症についての知識が不足していたり、目の前にいる人が認知症だと認めることが出来ないなど、無知や認識不足からくることがほとんどです。認知症の事を知らないために、ADLの維持・向上を目指して出来ない要求を行うこともあります。認知症という言葉は誰でも知っているでしょうが、認知症の事はまだまだ知られていないのが現実です。少しの事でも気になること、心配なことは何でもよいので認知症に関して気がかりな点は琉球病院連携室までご相談ください。

重症心身障がい医療

8月は毎年、プール遊びを行っています。ホール隣の3階デッキにて行いました。小グループで各病棟3つに分かれ楽しんで頂きました。頭から潜って活発に遊べる方、浮き輪に乗りスライダー遊び、水鉄砲やボール遊び、ホースから出る水を身体にあてたり様々な反応がみられました。強い陽射しによる暑さも心配しましたがブルーシートを日よけに設置し、涼しい風が通り抜けていました。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い「飲酒欲求」を直接和らげてくれる作用があります。当院では令和元年7月末現在、外来通院の患者さん88名、入院中の患者さん15名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者さんの方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者さんへは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療

令和元年6月の訪問件数は792件で、月平均では38件の利用となっていました。7月は暑さ厳しく訪問看護で伺う際は、熱中症対策を念頭に声掛けを行いました。8月は、旧盆もあり、久しぶりに親戚の方々とお過ごされる方や、来客の準備などで忙しいとのことで、訪問のキャンセルも多くありました。しかし、利用者の皆様が親戚の方々とお過ごすことを心待ちにしている場面もあり、ほほえましく感じる月でもありました。9月になりましたが、まだまだ熱く、家の中にも熱中症が気になるほどです。

訪問看護スタッフも暑さに負けず、今月も利用者の皆様、ご家族の皆様の元へ訪問に伺いたいと思います。悩み事や心配事、不安に思うことがあれば、訪問時にお話を伺えたらと思っています。身近な聞き役、相談役として、皆様のお役に立てれば幸いです。

臨床研究部活動状況

『第62回日本病院・地域精神医学会総会のご案内』

令和元年10月11日(金)・12日(土)の両日、沖縄県男女共同参画センターにいるおよびパシフィックホテル沖縄において、第62回日本病院・地域精神医学会総会が開催されます。「安心して病むことのできる社会—多様性があるがままにともに歩いていくチャンプルーの島沖縄で—」をメインテーマに、特別公演では野村謙先生(沖縄愛楽園園長)に「合言葉はライフサポート~愛楽園から看取りを考える~」をテーマにご講演いただきます。また大会企画シンポジウムでは「安心して病むことのできる社会は構築されたか」、理事企画シンポジウム「身体拘束のあるべき姿にむけて」、大会企画交流コーナーでは「現地に聞こう!どうなのイタリアの精神保健福祉医療の実際」をテーマに、リアルタイムでイタリアとネット回線をつなぎ、議論を深めます。その他、一般演題をはじめ、市民公開講座、交流コーナーなど、さまざまな企画を予定しております。多くのみなさまの参加をお待ちしております。詳細は大会専用ホームページをご参照ください。URL:<http://byouchi.org/62th/>

